

1. 菖蒲池古墳とは

榎原市菖蒲町に位置し、甘樫丘から西に延びる丘陵の南斜面に築かれた、7世紀代の古墳です。

墳丘は封土の流出および後世の改変が著しく、埋葬施設である横穴式石室の玄室天井石は地表に露出しており、羨道の天井石も失われています。現在は玄門部の上から玄室内の様子を見ることができる状態になっています。

玄室の規模は、長さ約 7.2m、幅約 2.6m、高さ約 2.6mを測ります。玄室には、2基の家形石棺（前棺・奥棺）が縦一列に並べて安置されています。

2基の石棺は、細部に違いがありますが、ほぼ同じ形に仕上げられています。棺蓋は寄棟式の屋根で、頂部に棟飾り風の突起があります。棺身の表面にも柱や梁を表現した突起が見られます。また、棺の内面には漆が塗られています。このような精巧な造りの家形石棺は他に例が無い特異なもので、菖蒲池古墳の代名詞と言えます。

なお、石室部分は昭和 2 年（1927）に国の史跡に指定されています。

平成 19 年（2007）には、丸山古墳や植山古墳、高松塚古墳などとともに、菖蒲池古墳も「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の構成資産の一つとして世界遺産暫定一覧表に記載されました。

2. 発掘調査の成果

これまで石棺や石室と周辺地形の測量調査が行われていただけで、その墳丘形態や規模については不明でした。当教育委員会では、平成 21 年度（2009）から範囲確認調査を実施しており、今回が第 2 次調査となります。

【2009 年度調査の成果（1～4 トレンチ）】

玄室を中心にして東・北・西・南西の位置に調査区を設定しました。調査の結果、墳丘が二段築成の方墳もしくは多角形墳であることが明らかになりました。

墳丘の東側と北側で壕（検出幅 6m以上・深さ 2m以上）を確認しました。当初は、西側にも壕が存在していたと推定できますので、壕は墳丘の背面と東西側面を巡っていたと考えられます。

上段・下段の墳丘裾には基底石（幅 0.4m、高さ 0.3m）が出土しました。基底石は、飛鳥川流域の石英閃緑岩を用いています。基底石前面には幅 2.2～2.5mの平坦面（テラス）があり、その上面には 3～5cm 大の川原石を主とする礫敷が施されています。また、古墳の東側（壕の東）の平坦部で 2 基の柱穴を確認しました。

【2010 年度調査の成果（5・6 トレンチ）】

■5 トレンチ

下段墳丘の南西コーナー部を検出しました。墳丘裾の基底石が矩形に並んでいるため、下段墳丘は方形であることが判明しました。下段墳丘裾の東西長は約 30mになると想定されます。

墳丘の上部は後世に削平を受けており、特に南西コーナー付近は基底石直上まで削平が及んでいました。墳丘前面（南辺）の基底石は西端より約 2m分（3 石）が残されていました。それより東の基底石は取り去られていましたが、その抜き取り穴を確認しました。

基底石と墳丘前面の礫敷は、南西コーナーに向かって段上に低くなります。これらの状態は、南西コーナー部一帯が地滑り（地震が原因か？）を起こした結果である可能性が高いと考えられます。地滑りは垂直方向に最大で約 0.7m沈下しています。

礫敷は墳丘前面（南西コーナーより東側）では 3～5 cm大の川原石を全体に敷いています。一方、墳丘西から南西（5 トレンチ西半部）は、粗砂に少量の川原石（3～5 cm大）を含む砂利敷

であり、墳丘前面と側面の地面で仕上げ方に違いが認められます。

また、墳丘の西側において、藤原宮期頃（7世紀末）に行われた整地を確認しました。

整地層の上面には、南北方向の石組み溝が構築されています。石組み溝は、石を 2 列に並べて溝の側面を構築するもので、規模は幅約 0.3m（石材を含むと約 1.0m）、長さ約 2.5m、深さ約 0.3mを測ります。石組み溝に利用されている石は、基底石と大きさや石材が共通していることから、それを再利用している可能性が高いと考えられます。

調査では、鉄滓、輪の羽口、内面に漆が付着した土器など、鑄造に関わる遺物が出土しています。これらの遺物から、周辺で鑄造が行われていた事が推定されます。

■6 トレンチ

墳丘が多角形であれば、本トレンチ内においてその頂点の検出が推定されていました。しかし、南北方向の上段墳丘裾の基底石およびその前面に礫敷が約 3.3m出土しました。このことから、上段墳丘についても方形である事が明らかになりました。

3. まとめ

調査により、墳丘規模は下段一辺約 30m・上段一辺約 18mの規模を測る、方墳である事が明らかとなりました。

また、築造から 1 世紀も経たない藤原宮期頃に、墳丘の一部を破壊しその隣接地を利用している事は、菖蒲池古墳の被葬者や築造時期を検討する上で、興味深い材料と考えられます。

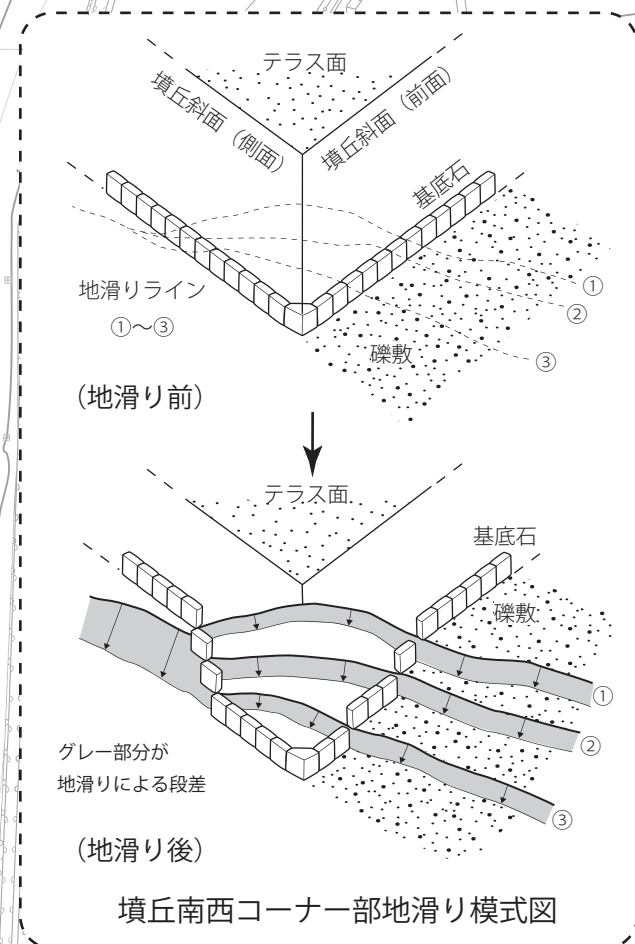
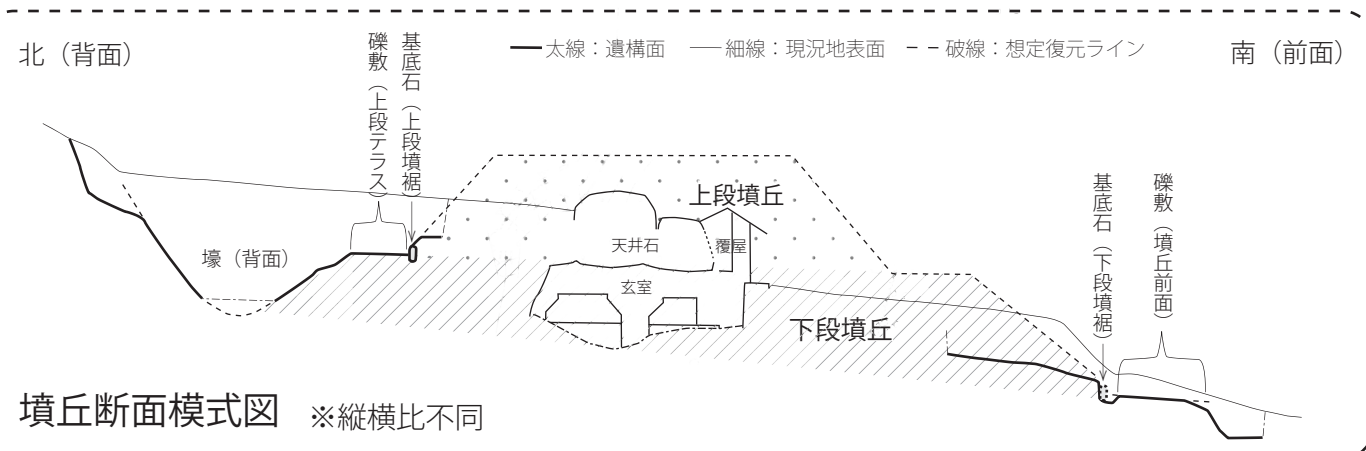
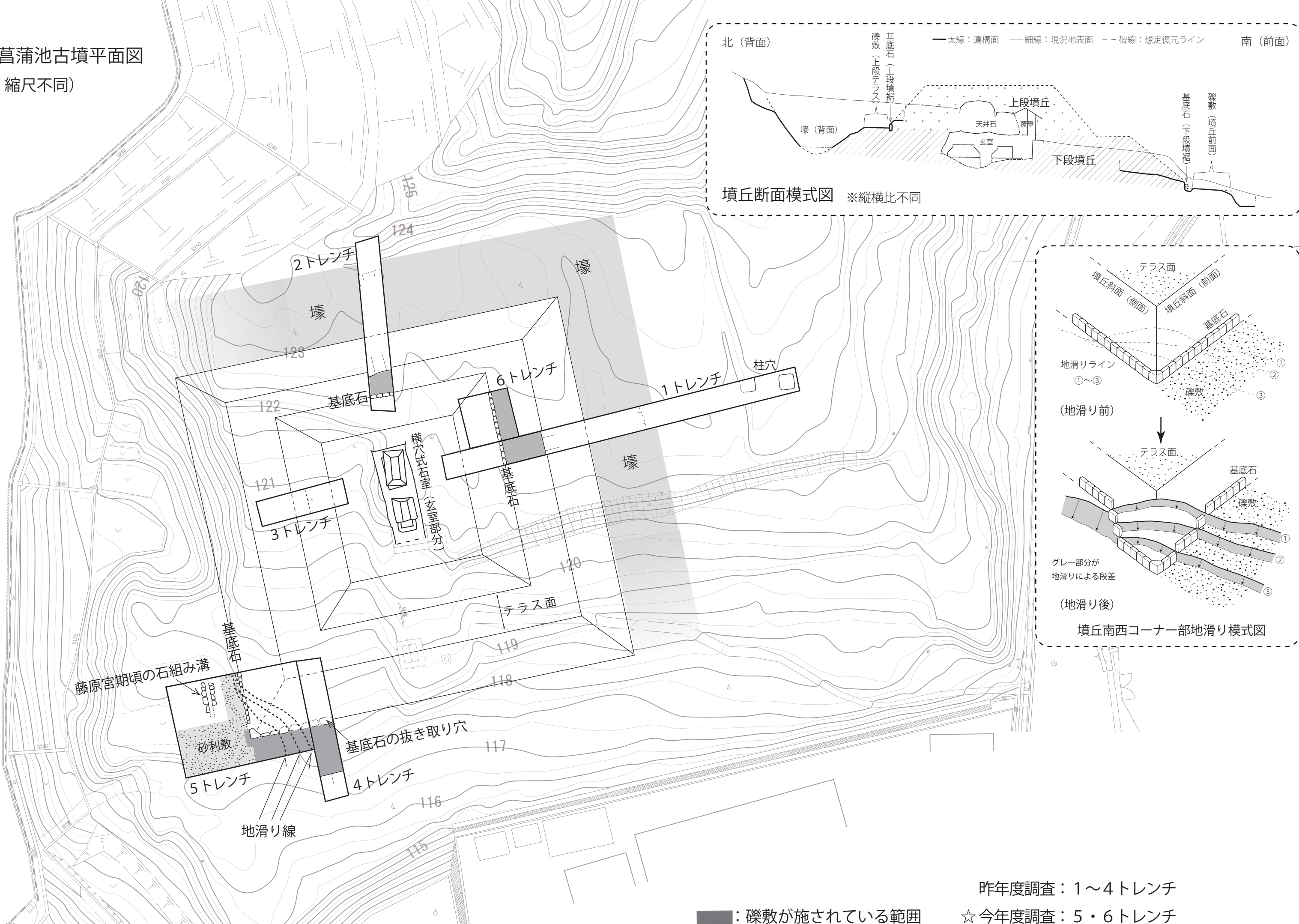


1. 菖蒲池古墳
 2. 丸山古墳
 3. 植山古墳
 4. 五条野内垣内古墳
 5. 五条野向イ古墳
 6. 五条野城脇古墳
 7. 宮ヶ原 1 号墳
 8. 宮ヶ原 2 号墳
 9. 牽牛子塚古墳
 10. 岩屋山古墳
 11. 梅山古墳
 12. カナヅカ古墳
 13. 鬼俎・雪隠古墳
 14. 野口ノ王墓古墳
 15. 中尾山古墳
 16. 高松塚古墳
- 4・5・6・7・8は既に消滅



菖蒲池古墳平面図

(縮尺不同)



■: 礫敷が施されている範囲 (Gravel paving area)

☆ 今年度調査: 5・6トレンチ (This year's investigation: Trenches 5 and 6)

昨年度調査: 1~4トレンチ (Last year's investigation: Trenches 1-4)